

令和6年6月16日

学校法人三幸学園
名古屋スイーツ&カフェ専門学校
校長 岩田 博文 殿

学校関係者評価委員会
委員長 足立 美優

学校関係者評価委員会実施報告

令和5年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 足立 美優 (株式会社 DD ホールディングス)
- ② 堀 潔 (株式会社ホーリープランニング)
- ③ 田中 宏幸 (イオンモール株式会社 営業マネージャー)
- ④ 藤原 信一 (飛鳥未来高等学校 名古屋キャンパス サブマネージャー)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

令和6年6月12日 (会場 名古屋スイーツ&カフェ専門学校 704教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

令和5年度 学校法人 三幸学園 名古屋スイーツ&カフェ専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 梅田 正憲

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 足立 美優

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、製菓・調理分野の学校として「美味しくてかわいいスイーツと・カフェを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、製菓・調理分野として「美味しくてかわいいスイーツ・カフェを通じて、時間と空間をトータルプロデュースし、人の心を豊かにする人材を育成する(全ては、お客様の笑顔とありがとうのために)人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

8年目を迎え、今まで同様に教育理念である「技能と心の調和」に基づき、社会の動向、業界の現状を踏まえ、この7年間で培った基盤を軸に、より良い学習内容、充実した学習環境、安定した就職サポートを提供できるよう、以下の点を重視し教育を進めていく。

① 前年度重点施策振り返り

・教育の質の向上

→各種学生アンケート(授業・日常生活・卒業時等)において在校生の満足度向上

→退学率低減 多様化する学生に対して、適切な支援指導の強化 4%台の維持

・売り手市場における就職対策(離職率低減を目指す)

→学生一人一人に合わせた就職支援の強化により、96.4%の就職決定率となり昨年より向上。

・卒業生の就業状況把握と卒業生支援

→企業訪問により卒業生の就業状況の把握と企業との関係性構築や向上を目指す。

卒業生 LINE を活用し、中途採用募集の案内等も積極的に提示していく。

・危機管理(安心、安全につながる環境設備)。

→HR 等で定期的に安全管理と災害時の避難経路等の伝達を行っている

→教職員を対象に応急救護研修を実施。

→食を扱うものとしての衛生管理指導の徹底

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--|----|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） | 4 |
| 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 |
| 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか | 4 |
| 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 3 |

① 課題

- ・今後も継続的に生徒、保護者に向けて、理念、目標の浸透を高める施策を進めたい。
- ・社会情勢や業界ニーズの変化に対応できるよう産学連携を拡げ深め、情報収集に努める。

② 今後の改善方策

・校内掲示での発信は勿論のこと、引き続き学内ネットワークである Sanko Gate も活用し、教育理念等の周知を行う。併せて教職員には会議の場において、都度、理念、特色を常に把握、理解させ、生徒へ質の高い学びを提供出来るよう繋げたい。

保護者には入学時の保護者会のみならず、定期的な発信文書、各行事や2年生の実習科目である「学内店舗実習」を見学いただき、当校の教育の実態・成果を理解して頂けるよう、依頼・発信を進めていく。

・学校運営や教育活動の中において、常に教育理念や目標を達成しているか俯瞰的に教育効果を発揮できるよう努めていく。

・引継ぎ、業界のニーズに合った教育を行うための教員研修会を実施。

③ 特記事項

・以前より教育理念から人材育成をより体系化するべく、三幸学園としてのビジョン、ミッションを設定し、教職員へ浸透を図っている。業界ニーズをより深く理解し、日々の教育へ活かしていくことを目的に、関連企業、地域団体と産官学連携・地域連携し、教育課程の共同編成やシラバスの共同開発を行い、業界の即戦力となれる人材育成を積極的に実践している。

・理念の浸透として、「オープンキャンパス」時から教育理念を伝える機会や資料を設けており、また、入学生保護者には「新入生保護者説明会」、入学者には「スタートアッププログラム」等を利用して理念の浸透を図っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・高校在学中に名古屋スイーツ&カフェ専門学校との連携授業があるため、理念や求めている人材像等は高校として認識できていると感じている。保護者に対しても保護者説明会、進路ガイダンスの機会を設け、理念や教育方針の浸透が図られている。（藤原委員）

・LINE ワークスというアプリを通して企業理念に触れる機会がある。会社説明会を実施する際に話し手側となることで、改めて再確認することができる。（足立委員）

・お客様第一という企業理念がある。さまざまな問題やトラブルが起きたとき、企業理念をもとに改善や対応を考え実行する仕組みが成り立っている。当たり前のように日々の業務の中に理念が浸透していることが理想である。（田中委員）

(2)学校運営

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--|----|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 事業計画に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 |
| 人事、給与に関する制度は整備されているか | 4 |
| 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | 4 |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 3 |
| 教育活動に関する情報公開が適切になされているか | 4 |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3 |

① 課題

- ・教職員・連携企業等を今まで以上に巻き込み、益々の学校一体化を進めていく。
- ・職業実践専門課程の認定、更に高等教育無償化の認定含め、今後も様々な点において情報公開が求められることを想定し、教育の質の担保・コンプライアンス体制の強化に今以上に取り組んでいく。
- ・情報システム化が通常化している昨今の社会背景にあわせ、授業や生徒の情報管理において安全性を担保しつつ、迅速な情報共有と体系化を進め、効率化を図る。

② 今後の改善方策

- ・運営方針に沿った校務の割当や業務フローを常に確認することで学校組織としてのガバナンス体制の構築を進めていく。
- ・学校として生徒や社会に発信する内容には特に気を配り、情報発信の管理を徹底していく。

③ 特記事項

- ・職員間の Microsoft Teams と OnTime の運用を推奨し、情報交換の簡略化を図る。
- ・個人情報が含まれる内容にはパスワードによる閲覧管理を徹底。
- ・授業における、chrome book の導入。（Word・Excel・PowerPoint・動画編集等）
- ・担任と教科担当間におけるクラス情報共有ツールとしてグループチャットを開設。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・顧客情報管理方法を随時チェックしながら、定期的に外部による第三者調査や全社員を対象とした個人情報のリスクマネジメントに関する e ラーニングの研修を実施している。情報漏洩は絶対あってはならないことなので管理体制の仕組が重要である。（田中委員）

(3)教育活動

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|----|
| 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 |
| 目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 |
| キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | 4 |
| 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 |
| 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 4 |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 |
| 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 |
| 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか | 4 |
| 資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 |
| 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか | 3 |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 3 |
| 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | 4 |
| 職員の能力開発のための研修等が行われているか | 4 |

① 課題

- ・更なる教育活動(質)の向上のため、各種研修を充実させる。
- ・業界の現状を把握し、より学習効果の高い連携、取組みを実施していく。
- ・優秀な教職員の確保(採用強化)。教員育成システムの深化

② 今後の改善方策

- ・新任教員への教育プログラムの体系化(OJT 制度の活用等)
- ・施設実習、スイーツカフェクリエイターコースのインターン実習、特別講師の招待などにより時代に合わせた現場のニーズを常に取り入れられる環境を作り、生徒教育に繋げていく。
- ・カリキュラムの見直しや、シラバスの改善を業界の意見を踏まえ、常に取り入れていく。
- ・教員及び教育の質の向上を目的とした研修、講習会を学内外で開催し、任意参加を促していく。特に実習教員においては時代に合わせたスキルアップの場を取り入れ統一した指導力の担保を強化する。
- ・卒業生も現場でキャリアを積んできているので、卒業生採用やそのつながりを活かす採用にも注力していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・業界的にトレンドが重要であるため、年々、時代のトレンドを取り入れたカリキュラムに変更し、授業内容が見直されていると感じている。新たにタブレット端末が使用されるようになるなど、学ぶツールも変わってきているのは素晴らしい。(堀委員)

・高校では、全学生がタブレットを使用し学んでおり、レポートの提出などタブレットで行っているため、紙の配布は基本的には行っていない。そのためメモを取る習慣がなく、画面を写真撮影するなど、タブレットで完結する環境に慣れている。今の学生の学習環境に合わせて、授業展開を柔軟に対応する必要がある。(藤原委員)

(4)学修成果

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---------------------------------------|----|
| 就職率の向上が図られているか | 4 |
| 資格(免許)取得率の向上が図られているか | 3 |
| 退学率の低減が図られているか | 3 |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3 |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3 |

① 課題

- ・一人一人の学生にマッチングする就職先の確保。(離職率の低減)
- ・資格試験合格率の更なる向上。
- ・退学率(目標 3.5%以下に対し 4.9%、昨年度比+0.3%)
- ・1年生退学率の増加(R5 8.7%、昨年度比+3.2%)
- ・卒業生との継続的な結びつき強化

② 今後の改善方策

- ・全クラス個人面談実施により担任との関係性構築
- ・教職員会議分科会での課題抽出と目標設定、授業アンケート対策施策実施
- ・全教員の指導レベルの統一(全体会議での授業実践ガイドブック・学生便覧共有)
- ・資格取得の動機付けを重点的に実施し、上級試験、再受験を含め、チャレンジ意欲も醸成させる。
→資格取得や取得に必要なスキルの現場での活用法を伝える。
- ・授業内の資格取得対策を強化するとともに、課外のコンテスト対策も更に充実させる。
- ・退学者に対する分析、対応策を飛鳥未来高等学校との連携を深めて実施していく
- ・卒業生支援として校友会を中心とした活動を積極的かつ戦略的に支援することで全体的な把握に努める。
- ・個別状況の把握のためハイパーQUアンケート(楽しい学校生活を送るためのアンケート)を年2回実施しクラス運営に活用する。
- ・一次支援に注力し、専門学校で学ぶ意義と目標設定によるスモールステップで目標喪失による退学を防ぐ。

③ 特記事項

- ・令和5年度退学率 4.9% ※令和4年度退学率 4.6%
- ・令和5年度単位修得率 98% ※令和4年度単位修得率 96%
- ・令和5年度就職内定率 96.4%。 ※令和4年度就職内定率 95.9%
- ・サービス接遇検定/令和5年度 84.8% ※令和4年度 88.7%
- ・色彩検定/令和5年度 43.2% ※令和4年度 67.9%
- ・ラッピング検定/令和5年度 92.3% ※令和4年度 93.3%
- ・SANKO リンク(卒業生ネットワークサイト)は設置済み。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・年々通信制高校の入学生が増加しており、まずは個に対する支援が重要と感じている。個で考えさせる力を身につけ、徐々にグループ行動へ移行している。コロナ禍の影響で集団行事に慣れていない学生が多い世代であるため、段階的に集団行動に慣れさせる必要がある。(藤原委員)

・新卒入社社員のタイプも変わってきていると感じている。伝え方や対応方法を相手に合わせて変えている。仕事に対する夢や目標を持つことの必要性を感じる。(田中委員)

・開校当初より、多様化する時代の中で生徒の質や先生の熱意が上がってきていると感じている。(堀委員)

・卒業生として在学中に資格取得に向けて合格できるような授業内容や検定対策を実施していただいたので安心して受験することができた。(足立委員)

(5) 学生支援

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|----|
| 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生相談に関する体制は整備されているか | 4 |
| 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | 4 |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 3 |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 3 |
| 学生の生活環境への支援は行われているか | 3 |
| 保護者と適切に連携しているか | 3 |
| 卒業生への支援体制はあるか | 3 |
| 中途退学者への支援体制はあるか | 2 |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3 |
| 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 4 |

① 課題

- ・多様化している学生一人一人に合わせた支援を強化していく。
- ・卒業生の就業状況の管理の徹底
- ・中途退学者への支援策の検討

② 今後の改善方策

- ・就職支援を充実させるため、教職員の業界理解の更なる向上と企業との関係性構築の強化
- ・中途退学者への継続的な状況確認と進路アプローチ。

③ 特記事項

- ・卒業生向け LINE アカウントにより、卒業後の相談や求人表のやり取りが SNS ツールにて可能。
- ・令和5年度、学内での会社説明会を 31 回開催。
- ・複数名の教員による就職支援システムを構築。（ふるさとサポート制度あり）
- ・経済的な支援として、特待生制度、学費応援制度等あり。
- ・卒後教育として「製菓衛生師」のセミナー制度も予定している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・高い技術力などは求めておらず、接客業務もあるため相手の目を見て会話ができるか、受け答えがしっかりできるかなど、内面的な部分を重要視して採用している。技術と合わせて内面的な部分の育成も引き続きお願いしたい。（堀委員）
- ・菓料祭や学内店舗実習、就職ガイダンスなど母校に気軽に来校できる機会があるため、卒業してからも学校と繋がりを維持することができている。（足立委員）
- ・入社後のギャップを防ぐためにインターンシップを充実させることが効果的だと思う。（田中委員）

(6)教育環境

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--|----|
| 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 4 |
| 学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 3 |
| 防災・安全管理に対する体制は整備されているか | 4 |

① 課題

- ・更なる学習環境の整備、備品の充実に注力していく。
- ・基本的な防災体制は整っているが、より実践的な訓練を実施。

② 今後の改善方策

- ・質の高い教育を提供できる環境向上のため、必要物品を充実させていく。
- ・業界の現状に対応した職業教育を行うべく、教育ツールを企業と連携し開発、整備する。
- ・より安全を追求し、防災整備、防災訓練を実施する。（ホームルームでの避難訓練）
- ・当校学校教育や方針を理解してもらえよう、外部実習だけでなく特別講師による授業や産学連携イベントによる連携など多方面で企業連携を実施していく。

③ 特記事項

- ・例年通り、一定量の備蓄を整備している。
- ・施設実習(インターンシップ)の実施
- ・コロナ後の海外研修再開(ヨーロッパ研修旅行 令和6年2月26日～令和6年3月4日)

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・インターンシップを受け入れる側としては研修者に対して特に要望はなく、全面的に協力する意向である。（田中委員）
- ・防災や備蓄等に関しては消防計画等に従って粛々と実施することが重要である。（田中委員）

(7)学生の受入れ募集

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 学生募集活動は、適正に行われているか | 4 |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 3 |
| 入学選考は、適性に行われているか | 4 |
| 学納金は妥当なものとなっているか | 4 |

① 課題

- ・教務活動と広報活動の連動を意識した募集を行う。
- ・本校の教育理念や特徴を理解した志の高い入学生の確保を目指し、適切な学校情報の訴求力強化
- ・入学者の多様化(通信制高等学校出身者・留学生、リカレント等)の受け入れ体制構築

② 今後の改善方策

- ・在校生等からのリアルな話等を織り交ぜ、今以上に実情に合わせた募集活動を行う。
- ・将来像(夢、目標等)をイメージさせ、現実とのギャップを生まない募集活動を行う。
- ・SNSを活用し、募集対象者への効果的な学校認知活動の実施。
- ・早期の職業観支援を強化し、高校1年生や中学生への活動も増やしていく。

③ 特記事項

- ・学納金及び、奨学金制度等の決定に際しては、社会情勢を踏まえた上で決定している。
- ・一般社団法人愛知県専修学校・各種学校連合会が定めた内容を遵守している。
- ・入学生へ製菓衛生師通信課程の案内

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・製菓の専門学校に進学する学生は、元々職業イメージを持っている学生は多い。職業イメージを持っていない学生については、まずは自分の趣味を見つけ、興味や関心のあることを進路の方向性として促している。(藤原委員)
- ・入学意欲はある中で、学費に関する不安を抱えているケースがある。オープンキャンパスにて、高校生に対し学費について分かりやすく説明することは必要だと感じる。合わせて保護者に対して説明することは必須である。(足立委員)

(8)財務

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 4 |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023年度～2027年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか | 3 |
| 自己評価結果を公開しているか | 4 |

① 課題

・個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守を徹底して継続していく。

② 今後の改善方策

・引き続き、会議や研修、掲示物等を通じて、全ての教職員に法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る。

③ 特記事項

- ・平成 28 年度自己評価結果より公開を開始している。
- ・平成 30 年度より「職業実践専門課程」認定校として情報公開を開始している
- ・令和元年度より「高等教育無償化」認定校として情報公開を上記より追加している

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|---|----|
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3 |
| 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか | 4 |
| 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 3 |

① 課題

- ・社会貢献として一般の方々への公開講座や地域貢献に繋がる取組み（地域活動への参加等）を検討。
- ・更なるボランティア活動を奨励、支援の強化。（特に福祉施設への活動を強化）

② 今後の改善方策

- ・新たなボランティア活動先の開拓。
- ・保育園やこども園との取り組み実施
- ・イオンモール様との多岐にわたる企業連携行事の企画

③ 特記事項

- ・平成 29 年度より営業許可を取り、学内店舗実習を展開している。（1階店舗実習室にて）
- ・平成 29 年度より児童養護施設支援、高等学校への技術支援等を強化している。
- ・令和 3 年度より、イオンモール様と連携を図り、クリスマスイベントを開催
- ・令和 4 年度より、名古屋こども保育園との連携を開始。
- ・令和 5 年度より、近隣商店街及び地元企業様と連携し、ハロウィンイベントを開催

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・定期的に地域住民を対象にしたイベントを開催することで、来場した住民の方に周知する機会となる。そのような活動を続けていくことで知名度や満足度が上がり、地域貢献に繋がると思う。（田中委員）

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(委員より総評)

振り返りと具体的施策を確認し、改めて前年度に比べて進化していると感じる。時代背景や人材の多様化に合わせ、個々を尊重した教育や支援の重要性が益々高まっている。今後も高校分野、在校生、卒業生、業界と様々な角度の意見を積極的に取り入れ、課題の早期対策に繋げていただきたい。時代に沿ったより良い教育活動の運営を期待し、良い人材を輩出し業界全体の底上げにつなげていただくことを期待している。

(学校側より)

・年々変化する学生に合わせ、時代の変化にもどかしさを感じながらも、学生一人一人を大切に成長実感得られる意図した教育活動を今後も姉妹校や地域と協力し合いながら、困難を希望に変える姿勢で学生のためにより良い活動をしていきたい。

・個人情報保護やハラスメント防止等、社会から求められていることを十分に理解しつつ、更なるリスクマネジメントに取り組んでいくとともに少子化において専門学校も突然破綻する時代である。在校生に対しても卒業生に対しても母校をしっかりと守るために本校の特徴や強みをしっかりと高校生に伝え、入学者を確保していく。